

令和5年度 旧宇和島管内生徒指導夏季研修会 実施報告書

1 日 時 令和5年7月31日(月) 10:00~12:00

2 場 所 宇和島市立岩松公民館(大集会室)

3 講演内容

- ・ 演 題 「多様なまなざしの下での生徒指導」
- ・ 講 師 愛媛大学大学院教育学研究科特定教授 中尾 茂樹 氏

(1) 「すべてはまなざし」

ア 我々教師の仕事とは

「分きたいから、分からないと言える子どもを育てる」ことである。

イ これからの(新しい)教育は「探求」

「過ち」はいけないが「間違い」は大丈夫。学校現場では、とにかく「間」が大切なのであるが、「時間」「仲間」「空間」の「間」が違っているのはいくらでもかまわない。そこを見つめ、悩み、それでも顔を上げ一步一步進んでいく。正解などない世界で課題そのものから創造していく、そんな「探求」を楽しめばよいのだと思う。

ウ 多様性の社会

予測不能な現代社会においては、様々な視点が必要だと言われる。教育においても様々な視点が必要であり、特に生徒指導ではそれが重要である。

エ 求められる多様な視点

(ア) 「今、ここ」を見つめて

面と向かってコミュニケーションが取れない、と今の子どもたちを憂う大人は多いが、スマホで情報を素早くやり取りするなど、逆に今の子どもたちは、本当に様々なコミュニケーションツールを持っていると見直したい。

(イ) 依存先を増やす(障がい者と健常者の視点)

障がい者よりも健常者の方が依存しているものが多いというのは事実。色々なものに頼って生きているのは健常者の方であるといった視座は、目からうろこだった。

(ウ) 津波到達の碑(演習)

東日本大震災では、過去に「ここまで津波がやってきたぞ」と記す碑はいくつもあった。しかし、全く機能しなかった。そこで、中学生は新たな碑を作ろうとした。「どんなものができたでしょう？」という問いに様々な意見が出されたが、実際の東北の中学生は、風化する木で碑を作り、何年かごとにそれを作り替えることで震災を風化させないようにした。この柔軟な視点はすばらしいと思う。

(2) 「初心に戻って」

ア (新しい)生徒指導とは

(ア) 刷新された生徒指導提要

① 発達支持的生徒指導の進め

新しい「生徒指導提要」では、『積極的な生徒指導の推進』が更に強まっている。

② 社会に開かれた生徒指導の進め(魅力ある学校)

生徒指導は、学校だけではなく、地域の教育力に助けを求め「みんなの力」を借りて行っていかなければならない。そのために魅力ある学校づくりを推進することが大切である。

③ 福岡市の事例から

補導件数の多かった学校が、地域や関係機関の協力を得て見回り活動を行った。その結果補導件数が激減した。先生たちは、見回り活動という仕事が増えた反面、やらなくていい仕事(生徒指導等)の数が減り、結果的に楽になったと言う。生徒指導とはそういうものではないか。

(イ) 生徒指導充実のための四つのポイント

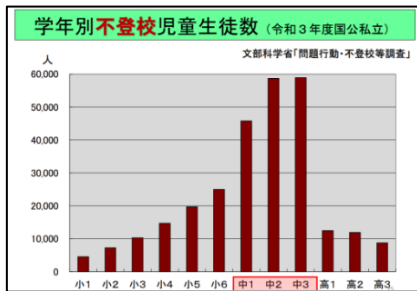
① 自己存在感の感受 ② 共感的な人間関係の育成

③ 自己決定の場の提供 ④ 安全・安心な風土の醸成

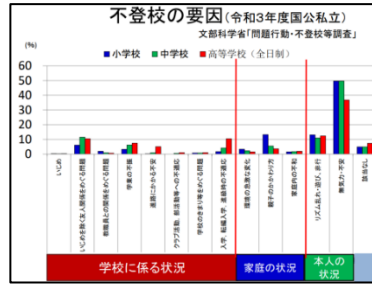
ここにすべてが出ていると思う。特に④安全・安心な「居場所づくり」がこれからの学校づくり(学級づくり)・生徒指導では大切である。

イ いじめ・不登校の現状

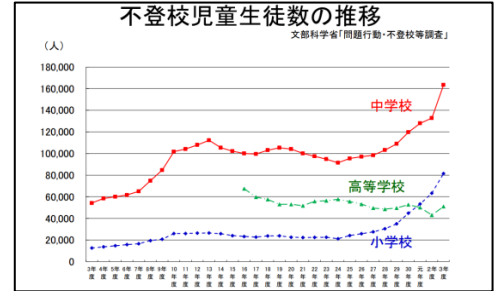
<表1 不登校児童生徒数>



<表2 不登校の要因>



<表3 不登校児童生徒数の推移>



① 今愛媛県が最も重要課題として取り組んでいるのがいじめ・不登校の問題である。現状では、不登校児童生徒数は増えている。

② 不登校の要因を見ると、学校に係る状況（原因）は少ない。本人や家庭の状況によることが多い。先生方は自信を持って生徒指導を進めてほしい。

ウ 新しい教育＝「探求」・・・ここから生徒指導を見直す！

(ア) デジタルかアナログかを超えて

子どもの声なき声を聴く努力を。子どもを“曇らぬ目”で見る努力をしてほしい。

(イ) 手紙の力

① 手紙の良さは、手紙を書いている間はその人のことをずっと考えていることであり、ずっとその人のために時間を使っていることである。だからこそ力があり、訴える力がある。

② 実際の事例から

非行に走った少女に対して、北海道の叔父から『北海道の空は、今日も広いです。』と一行の手紙が毎日送られてきたことで立ち直った事例。

(3) 「子どもに寄り添う」

聞こえない声を聴こう。形にならない思いを自分で感じよう。というのが生徒指導の基本である。コロナ禍においてマスクをしている今、「目で相手の気持ちを読み取ること」「目で気持ちを伝えること」が必要となった。

ア 大切にしたいもの

(ア) 学校はだれのもの

学校は校長のものではない。子どもだけのものでもない。そこに通う子ども教師、地域全てのものである。

(イ) 命を大切に

① 命を大切に教育は防災教育だけではない。子どもに寄り添い子どもを大切に、試行錯誤し、間違いながら「自殺予防」等に努める生徒指導も命を大切に教育である。

② 校内を見回ったときに、気になる子はどんな子か？一人にいる子は大丈夫。一人でも強さを持っている。逆に、二人でしかいられない子は、誰かを頼らなければならない不安定さを持っている。そういう子こそが目を掛けないといけない子である。



<写真1 実習：目で伝える>

イ となりのトトロに学ぶ

子どもの心を守るためには、子どもの言葉に耳を傾けること、興味を持ってその世界に入り込むことが大切である。

例えば、「となりのトトロ」の中で“マックロクロスケ”を見つけた“さつき”と“めい”へ、全てを受け止め発した父親の言葉は、実に子どもに寄り添うものであり、生徒指導において大切な姿勢である。

(4) 教育において大切なこと

教育において大切なことは、大人も子どもも「助けて」と言える関係性をつくることである。